

令和6年度 台東区区民文化財指定及び台帳登載について

【台東区区民文化財指定】

有形文化財（絵画）

- 1 板絵金地著色一ツ家図 歌川国芳筆 1面 [宗教法人 浅草寺]

有形文化財（考古資料）

- 1 北清島町遺跡 15号遺構出土木札 1枚 [台東区教育委員会]
- 2 浅草田島町遺跡(誓願寺跡) 西浅草二丁目 16番地点甕棺墓出土資料 1,067点 [台東区教育委員会]

【台東区区民文化財台帳登載】

有形文化財（絵画）

- 1 紙本著色仏涅槃図 神田宗庭善信筆 1幅 [宗教法人 浅草寺]

有形文化財（彫刻）

- 1 木造摩利支天立像 1軀 [宗教法人 徳大寺]

有形文化財（考古資料）

- 1 竜泉寺町遺跡竜泉二丁目 10番地点出土近代資料 一括 [台東区教育委員会]
- 2 三好町遺跡蔵前二丁目 16番地点出土古代資料 一括 [台東区教育委員会]

有形文化財（歴史資料）

- 1 金色養蚕大明神碑 1基 [宗教法人 妙音寺]

有形民俗文化財

- 1 吉徳これくしょん [芝居関係資料] 767件 [株式会社 吉徳]
- 2 浅草寺絵馬・扁額群（追加） 3点 [宗教法人 浅草寺]

○台東区区民文化財指定（令和6年度末件数：71件）

台東区区民文化財台帳に登載した文化財のうち特に貴重な文化財について、台東区文化財保護審議会の審議を経た上で、台東区教育委員会が指定する。

○台東区区民文化財台帳登載（令和6年度末件数：261件）

台東区の歴史・文化を理解する上で必要な文化財について、台東区文化財保護審議会の審議を経た上で、「台東区区民文化財台帳」に台東区教育委員会に登載する。

いた え きんじちやくしよくひ とつ や ず うたがわくによしひつ
板絵金地著色一ツ家図 歌川国芳筆

1. 区分及び種別 台東区有形文化財(絵画)、 台東区指定有形文化財 (絵画)
2. 名称及び数量 板絵金地著色一ツ家図 歌川国芳筆 1面
3. 所在地 台東区浅草2丁目3番1号 浅草寺
4. 所有者 宗教法人 浅草寺
5. 大きさ 全長 228.0×363.0 cm (額面 175.2×309.0 cm)
6. 品質・形状 桐材 板絵金地著色額装
7. 制作年代 安政2年(1855) 2月
8. 内 容

本図は、安政2年(1855)の浅草寺観音開帳にあわせて奉納された絵馬扁額である。画題の「一ツ家」は浅茅ヶ原(現・花川戸)にまつわる石枕の伝承話をもとに、江戸中期以降、浅草寺の観音信仰や姥ヶ池の由来話と結び付けられたものである。画面右から、老婆の娘、老婆、稚児に姿を変えた観音菩薩を描く。老婆は娘の首を掴んで目を大きく見開き、片肌を脱いで鉈を構える。娘は左足を踏ん張り、鬼の形相の老婆を見上げる。劇的な母娘とは対照的に、稚児に姿を変えた菩薩は静かに目を閉じ、半跏思惟の相をとる。

作者の歌川国芳は幕末の浮世絵師。初代歌川豊国の門人で、名を芳三郎といい、一勇齋と号す。奉納者は、新吉原京町一丁目にあった妓楼・岡本楼の主人であることが、銘文から分かる。

9. 台帳登載理由及び指定理由

「板絵金地著色一ツ家図」は浅草寺に所縁のある一ツ家伝説を題材にした絵馬扁額であり、地域、寺院、画題が密接に関係している作品として貴重である。また国芳は「一ツ家図」を数多く制作しており、得意とした画題であったと考えられ、絵師の画業を考える上でも重要である。



一ツ家図

きたきよしまちょういせき ごういこうしゅつどきふだ
北清島町遺跡15号遺構出土木札

1. 区分及び種別 台東区指定有形文化財（考古資料）
2. 名称及び数量 北清島町遺跡 15号遺構出土木札 1枚
3. 調査地 台東区東上野6丁目8番11号
4. 所有者 台東区教育委員会
5. 年代 元治元年（1864）（江戸後期）
6. 内容

本資料は令和6年1月に掲載の「北清島町遺跡出土資料一括」の一つである。

北清島町の辺りは、江戸時代に多くの寺が移転してきたため、浅草新寺町と称されるほどであったが、木札が奉納された幕末期には、福島藩板倉家中の屋敷が置かれていた。

木札には、表面に「元治元年に上総国東金町（現千葉県東金市）にある本漸寺が、武運長久を祈願して経典（陀羅尼經）1万巻を奉納した」という内容が、裏面には本漸寺27代僧正日掌とその花押、村の名前などが書かれている。これは、幕末に上総国で起きた尊王攘夷運動「真忠組の乱」の際に、当時東金町に領地を有していた板倉家からも兵が派遣され、討伐に成功した史実が背景になっている。

木札は、長さ60cm、幅16cm、厚さ1.4cmの尖頭型で、完形品である。表面の字体は精緻な楷書体で、裏面はやや乱雑な筆致で描かれている。本資料は幕末の騒乱期に区内に屋敷を有していた大名が、どのように行動したかを示す重要な資料である。

7. 指定理由

本資料は当時の社会情勢を知ることのできる一次資料であり、区の歴史のみならず、寺院の歴史においても重要である。



木札 表



木札 裏

あさくさたじまちょういせき せいがんじあと にしあさくさにちようめ ばんちてんかめかんぼしゅつどしりょう
 浅草田島町遺跡(誓願寺跡)西浅草二丁目16番地点甕棺墓出土資料

1. 区分及び種別 台東区指定有形文化財(考古資料)
2. 名称及び数量 浅草田島町遺跡(誓願寺跡)西浅草二丁目 16 番地点甕棺墓出土資料 木製墓誌 1 点、副葬品 1,066 点
3. 調査地 台東区西浅草 2 丁目 16 番
4. 所有者 台東区教育委員会
5. 年代 17 世紀後期から 19 世紀後期
6. 内容

本資料は令和 6 年 1 月に考古資料として登載された浅草田島町遺跡(誓願寺跡)西浅草二丁目 16 番地点出土埋葬関係資料一括の一部である。

墓誌類として木製墓誌 1 点、副葬品として陶磁器類 40 点(土製人形等)、木製品 842 点(墨書木札等)、銭貨 153 点、金属製品 11 点(柄鏡 2 点等)、その他(石製品(硯等)・ガラス製品(数珠)・鼈甲製品) 20 点。なお柄鏡・硯は箱入りとして出土しているものもある。

遺物の遺存状態は比較的良好なものが多く、墓誌・木札は完形品、鏡箱もほぼ完存であり、硯箱もかなり良好である。

7. 指定理由

本資料は、特に武家用であり、状態の良好な甕棺墓から出土した多様な副葬品が見られ、保存状況もかなり良好である。また文字資料として貴重な木製墓誌・木札等が出土し、特に木札は稀有なものである。



墓誌面

直
 □ 文化十二年
 九 院殿親上 憶念居士 靈位
 □ 日



柄鏡

しほんちゃくしよくぶつねはんず かんだそうていぜんしんひつ
紙本著色 仏涅槃図 神田宗庭善信筆

1. 区分及び種別 台東区有形文化財(絵画)
2. 名称及び数量 紙本著色仏涅槃図 神田宗庭善信筆 1幅
3. 所在地 台東区浅草2丁目3番1号 浅草寺
4. 所有者 宗教法人 浅草寺
5. 大きさ 総丈 552.4×357.0 cm 本紙 465.0×308.1 cm
6. 品質・形状 紙本著色 掛幅装(描表装)
7. 制作年代 江戸中期(18世紀)
8. 内 容

沙羅双樹に囲まれた宝床に横臥する釈迦如来を画面中央に配し、その周囲に嘆き悲しむ会衆を描く。画面上部には釈迦の母である摩耶夫人一行が見える。装丁は描表装とし、総縁は濃藍に金彩で宝相華文、中縁と風袋は若草色に金彩で唐草文を表す。

作者は印章から三代目神田宗庭の善信であることが分かる。神田宗庭一門は江戸時代前期から幕末まで続く絵師の家系で、代々「神田宗庭」を名乗り、寛永寺、浅草寺の仏画御用を担った。一門の絵画的特徴としては、濃彩で緻密な描写と、描表装を好む点が挙げられ、本図においてもこの特徴が顕著に見られる。

9. 台帳登載理由

本図は神田宗庭善信によって制作された仏涅槃図であり、神田宗庭一門の絵画的特徴を強く示した作品である。浅草寺には、善信筆の「熊谷稻荷縁起絵巻」(台東区指定文化財)、「如意輪観音像」(台東区文化財)、「稻荷大明神像」(台東区文化財)が伝えられており、同寺における善信の画業を考察する上で重要な作品である。



仏涅槃図

もくぞう まり してんりゅうぞう
木造摩利支天立像

1. 区分及び種別 台東区有形文化財（彫刻）
2. 名称及び数量 木造摩利支天立像 1 軀
3. 所在地 台東区上野4丁目6番2号 徳大寺
4. 所有者 宗教法人 徳大寺
5. 法 量 総高 29.2 cm 像高 19.4cm
6. 年 代 江戸前期（17世紀）
7. 制 作 者 不明
8. 形 状

条帛と裙、および、腰帯を着けた炎髪・忿怒形が、左腕を側方にあげ、右手を体側に垂下させ、宝剣の柄を握り、猪の背に立つ姿にあらわす。

9. 品質・構造

針葉樹材。頭・体の幹部を一木造とする。

足下の猪は腹の付近で前後二材矧を基本とする。

10. 台帳登載理由

本像は小像ながら、近世以降の日蓮宗で受容された摩利支天像の貴重な作例である。徳大寺では本尊として信仰されており、当地にあっても今日に至るまで広く親しまれてきた尊像である。本像は当寺の歴史や、江戸の摩利支天信仰を考えるうえでも重要である。



摩利支天立像

りゅうせんじまちいせきりゅうせんにちようめ ばんちてんしゅつどきんだいしりょう
竜泉寺町遺跡竜泉二丁目10番地点出土近代資料

1. 区分及び種別 台東区有形文化財（考古資料）
2. 名称及び数量 竜泉寺町遺跡竜泉二丁目 10 番地点出土近代資料 一括
3. 調査地 台東区竜泉 2 丁目 10 番
4. 所有者 台東区教育委員会
5. 年代 19 世紀後期から 20 世紀前期まで
6. 内容

本資料は竜泉二丁目における福祉施設新築工事に伴い、令和 4 年の調査で出土したものである。近代を二期に分け、明治初頭から明治 42 年（1909）までを第 1 期、それ以降関東大震災の起きた大正 12 年（1923）までを第 2 期とした。

出土品のうち、第 1 期では 294 点の遺物が検出された。陶磁器では瀬戸・美濃産の磁器が含まれている。それ以外の遺物では小菅集治監製レンガなどが出土している。

第 2 期になると、3316 点の遺物が検出された。中でもガラス製品の数が多い。当地にあった龍泉尋常小学校で使用されたと思われる、児童用の文房具なども多数検出された。

本調査地は、第 2 期に入ると大規模な宅地開発により多くの人々が居住していたが、関東大震災によって灰塵と帰した。本調査では焼失した町の区画がそのまま検出された。関東大震災の痕跡がそのまま残っている発掘調査は本区では初めてであり、非常に貴重なものである。

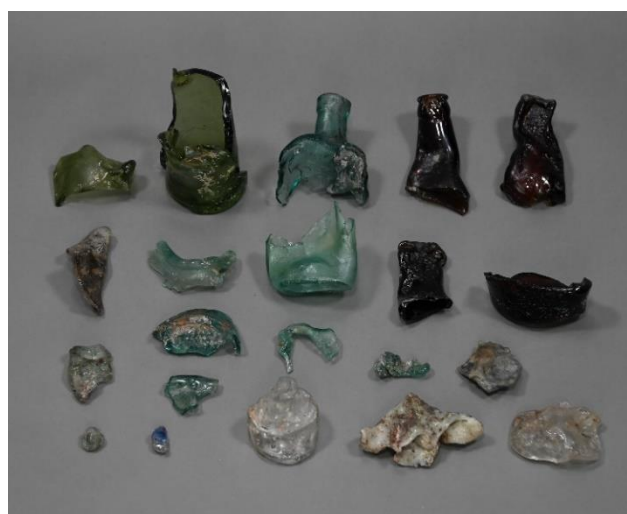
遺物の遺存状態は良好であり、完形品のものも多い。

7. 台帳登載理由

本資料は近代期における区内の土地利用の変遷と、関東大震災時の様相を知ることのできる資料が出土しており、貴重である。台東区の歴史を考える上でも重要である。



磁器 皿など



関東大震災で溶けたガラス製品

みよしちょういせきくらまえにちょうめ ばんちてんしゅつどこだいしりょう
三好町遺跡蔵前二丁目16番地点出土古代資料

1. 区分及び種別 台東区有形文化財(考古資料)
2. 名称及び数量 三好町遺跡蔵前二丁目 16 番地点出土古代資料 一括
3. 調査地 台東区蔵前2丁目16番
4. 所有者 台東区教育委員会
5. 年代 弥生時代から平安時代
6. 内容

本資料は事務所ビル建設に伴い、平成20年の発掘調査で出土したものである。

資料としては、弥生時代中期(紀元前4世紀～1世紀頃)の南関東系土器(中期須和田式壺・後期宮ノ台式壺)、古墳時代初期(3世紀後期頃)の東海系S字口縁甕や在地産土師器、奈良・平安時代の須恵器として南多摩産(多摩地方)、北武蔵南比企産(現鳩山村辺り)、同東金子産(旧入間郡辺り)、新治産(常陸地方)の坏、湖西産(東海地方)の甕・硯、常総系鉢等で、主として南比企産が多く、次いで東金子産となる。土師器としては南武蔵産(落合式-武蔵野地域)坏、比企型・相模型・房総系ロクロ土師器坏、武蔵型・相模型甕等である。時代を通し多様な産地・形式の土器が見られる。他には漁獵関係の土錘(土製の重り)などが出土している。

遺物の遺存状態は良好なものは多くはないが、完形の坏等が見られる。

7. 台帳登載理由

本資料は、台東区内の遺跡では調査例の少ない弥生時代の土器、特に今のところ区内では未検出の弥生時代中期の土器が見られること、更に古代を通じて当地周辺に由来する土器が出土し、当地周辺が河川及び陸路により各地とつながる結節地であることを示していることで貴重である。



弥生時代土器



古墳時代土師器

こんじきようさんだいまいようじん ひ
金色養蚕大明神碑

1. 区分及び種別 台東区有形文化財（歴史資料）
2. 名称及び数量 金色養蚕大明神碑 1基
3. 所在地 台東区松が谷1丁目14番6号 妙音寺
4. 所有者 宗教法人 妙音寺
5. 大きさ 総高 278.7 cm 総幅 241.0 cm 総厚 113.0 cm
6. 年代 元治元年（1864）
7. 制作者 神影原画 九代神田宗庭要信、聯額筆者 中沢雪城、石工 広群鶴
8. 台帳登録理由

金色養蚕大明神は養蚕にまつわる神として信仰を集めた。本碑は、江戸のみならず東は米沢、西は京都大坂と、広範囲にわたる地域の糸問屋が結集、協賛して造立に至った碑であり、当時の糸問屋の広域な連携が知られる点で極めて貴重である。さらに、医師の小川泰堂（1814～1878）らも日蓮宗徒として関係しており、こうした関係により妙音寺が造立の地として選択されたと考えられる。加えて本碑の制作には、寛永寺の絵所として活躍した絵師である神田宗庭や、谷中の石工である広群鶴らが関与しており、彼らの作例としても重要な遺品である。

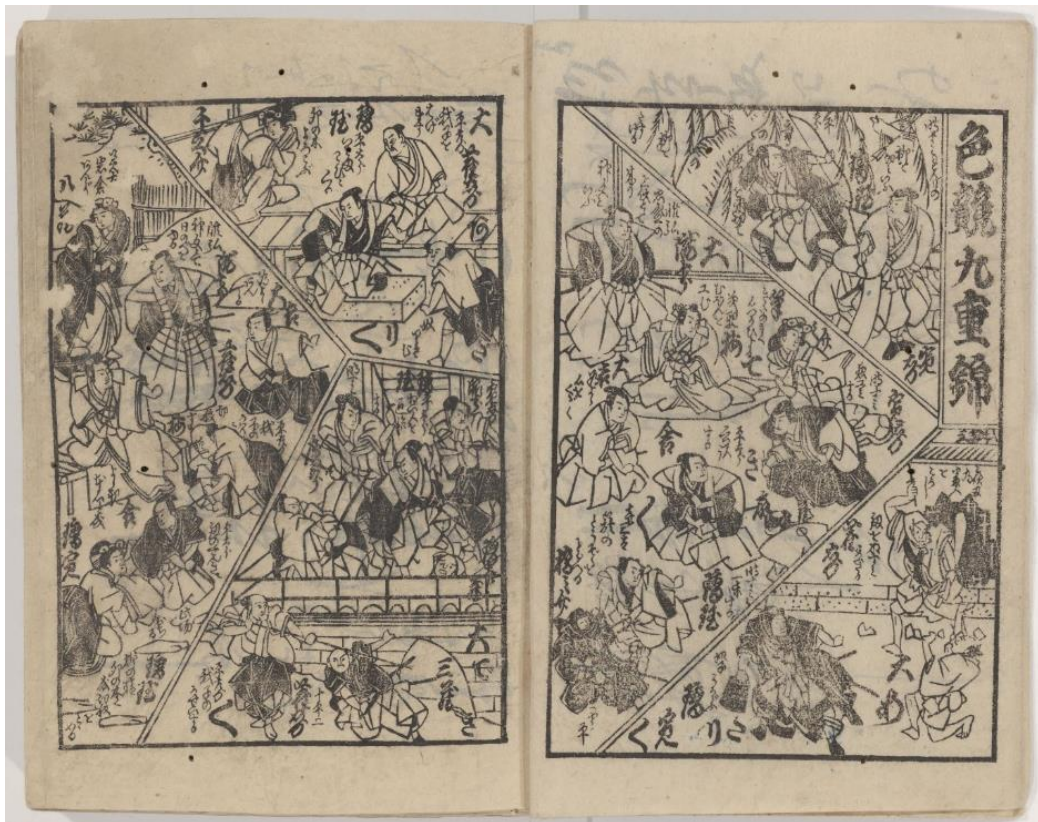


金色養蚕大明神碑

よしとく
吉徳これくしょん (芝居関係資料)

1. 区分及び種別 台東区有形民俗文化財
2. 名称及び数量 吉徳これくしょん (芝居関係資料) 767 件
3. 所在地 台東区浅草橋1丁目9番14号
株式会社吉徳 浅草橋本店 吉徳資料室
4. 所有者 株式会社吉徳
5. 台帳登録理由

「吉徳これくしょん」は、正徳元年（1711）創業の株式会社吉徳が所有するコレクションである。人形・玩具のほか、絵画・文献など、多様な資料からなる。人形業界の重鎮であるとともに、人形玩具研究の第一人者であった吉徳十世山田徳兵衛（1896～1983）が、昭和初期から研究資料として収集した品々を母胎とする。資料は『日本人形史』など多数の著書で活用紹介されており、「吉徳これくしょん」は、既に人形玩具研究の基本的な資料として、公共の価値を有している。現在、吉徳資料室が資料の保存と活用に努めているが、今後の長期的な保存と活用のため、資料の種別ごとに目録を作成した上で、順次、台東区区民文化財とするべきものである。なお平成28年以降、和書、一枚刷、芝居番付類（一枚刷）、古文書、羽子板、五月人形、雛人形が台東区区民文化財台帳に登録されている。



吉徳これくしょん

せんそうじえま へんがくぐん ついか
浅草寺絵馬・扁額群 (追加)

1. 区分及び種別 台東区有形民俗文化財
2. 名称及び数量 浅草寺絵馬・扁額群(追加) 3点
(1)楊香図(二十四孝のうち) (2)蘭陵王図
(3)楽器散蒔絵箱扁額
3. 所在地 台東区浅草2丁目3番1号 浅草寺
4. 所有者 宗教法人 浅草寺
5. 大きさ (1)全長 170.5×262.5 cm 額面 157.6×251.0 cm
(2)全長 142.0×85.0 cm 額面 129.5×72.4 cm
(3)全長 45.8×66.5 cm 蒔絵箱 21.7×25.7×9.3 cm
6. 品質・形状 (1)紙本金地著色額装 (2)絹本著色額装
(3)木製漆塗 蒔絵箱取付額装
7. 制作年代 (1)天保14年(1843) (2)弘化4年(1847)3月23日
(3)安政5年(1858)10月18日
8. 作者 (1)岸良(1798～1852) (2)石田半兵衛正豊(不明)
(3)柴田是真(1807～1891)

9. 内 容

平成25年台東区有形民俗文化財台帳に「浅草寺絵馬・扁額群」として登載された241点に追加登載するものである。

- (1) 二十四孝のうち楊香の故事を描く。岸派は代々虎図を得意としており、本図にも生き生きとした虎が描かれている。『新撰東京名所図会』では「方今観音堂内に掲げある絵画の扁額にして、名高きもの(後略)」の一枚に数えられている。
- (2) 舞楽「蘭陵王」の舞姿を描く。通常、蘭陵王は全身を赤い装束で揃えるが、本図では朽葉色の袍と白色の指貫を身に着けている点が特徴である。
- (3) 木製漆塗の額に蓋と身を一体とし、底を抜いた蒔絵箱を貼り付ける特異な形態を持つ。是真の作風の特徴が顕著にみられる。

10. 台帳登載理由

絵馬・扁額群は、浅草寺と本尊聖観音への人々の信仰を表す資料であるだけでなく、区内における江戸時代の風俗習慣、信仰を具体的に知る上で重要である。また、文化史的、美術史的にも価値が高く、貴重である。

(1) 楊香図 (二十四孝のうち)



(2) 蘭陵王図



(3) 楽器散蒔絵箱扁額

